



## 第11回 世界遺産シンポジウム報告

1月27日、北九州市小倉の九州国際会議場で『九州・山口の近代化産業遺産群』世界遺産シンポジウムが行われました。

昨年、市で行われた世界遺産シンポジウムにも出演したニール・コソン卿は、「日本はアジア最初の産業革命国家であり、これらの資産が日本という国家の形成に果たした役割は大きい。」と改めて同遺産群の価値について言及するとともに、葦山反射炉については、「初期の製鉄の発祥を見せている。技術革新のパイオニアであり、この後の炭鉱業や造船業へつながっていくものである。」と高く評価しました。

地域事例発表では、各地域で活動する団体によるさまざまな事例が発表され、伊豆の国市か

らは葦山反射炉応援団の事例発表も行われました。

今回のシンポジウムでは、『世界遺産登録には、地元の支援が欠かせない』ことや、『一つの世界遺産としての価値観が整っているのかが重要』であること、すべての構成資産が同じ立場で世界遺産を目指すことの重要性が指摘されました。



①事例発表する葦山反射炉応援団 ②展示ブース会場 ③反射炉CGアニメの上映に、多くの人が足を止める伊豆の国市ブース。

各構成資産を地域の宝と位置づけ、大切にするとともに地域に生かしていかうと活動する団体(仲間)がたくさんいることは、世界遺産登録に向けてとても心強いことです。今後、世界遺産登録を進めていく中で、各構成自治体、住民同士の連携をますます深めることが重要となります。

世界遺産推進課

☎ 055(948)1425